計画段階配慮手続に係る技術ガイドについて

環境省計画段階配慮技術手法に関する検討会 策定(平成25年3月) 掲載 HP アドレス http://www.env.go.jp/policy/assess/5-6planning/guide.pdf

【掲載事項:全189ページ】

【 掲載争垻:至 Ⅰ	.89 (-)]				
大 項 目	中 項 目	小 項 目			
環境影響評価	環境影響評価制度について				
制度の概要	環境影響評価制度の仕組み	法の仕組み・対象事業・法の体系			
	参考情報				
技術ガイド	複数案の設定	計画段階配慮を実施する時期			
総論編		複数案設定にあたっての留意点			
		ゼロ・オプション(事業を実施しない案)の			
		取扱い			
		複数案を設定しない場合			
		複数段階で配慮書案を作成する場合の留意点			
	調査、予測、評価の	重大な影響のおそれのある環境要素(重大な環境			
	対象範囲	影響) とは			
		計画段階配慮の対象となる環境要素			
		工事の影響の取り扱い			
	調査、予測、評価の方法	調査、予測及び評価の手法の選定			
		既存資料の収集整理の留意点			
		専門家へのヒアリング等の留意点			
		定性的予測の取り扱い			
		予測の不確実性の取扱い			
		重大な環境影響の比較整理			
		重大な環境影響の要素以外の要素の取り扱い			
		単一案の場合の評価方法			
		ティアリング			
技術ガイド	健康・生活環境等の	健康・生活環境等の技術手法について			
各論編	技術手法	環境要素ごとの評価指標及び技術手法の概要			
		環境要素ごとの評価指標及び技術手法の詳細			
		皮音、振動、悪臭、水質、底質、地下水、地形・地質、			
	地盤、土壌、廃棄物等、温室効果ガス等				
	自然環境等の技術手法	動物・植物			
		生態系			
		人と自然との豊かな触れ合い			
		(景観・触れ合い活動の場)			
	※重大な影響の把握(重要な	対象の把握)、調査方法、予測方法、評価方法、			
	ティアリング				

技術ガイド総論編 概要

Î	1	न सम्बद्ध
福	 電点	智 意点
複数案の設定	計画段階配慮を 実施する時期	(1)計画段階配慮の目的は重大な影響の回避・低減である。このことから、計画段階配慮は、事業の「位置・規模」又は「配置・ 構造」に係る複数案の設定が可能な時期から、「位置・規模」又は「配置・構造」が確定する前までに実施することが望ましい。
	複数案設定にあ たっての留意点	(1)計画段階配慮において設定する複数案は、事業の目的の達成が可能なものであれば、必ずしも全てが環境影響評価法の対象事業種、対象規模ではなくてもよい。
		(2)位置・規模の複数案の設定が困難な場合とは、①立地条件等から他の位置・規模での事業実施が不可能あるいは事業目的が達 - 時できたい場合 - の呼ご - 1位計画で重業位置・相構が沖完! アルス場合 - タの他が相定される
		. ス・ス・ダーン、シストエニョニ・チャニー かなん アス・ファット こうにからたこれです。 (3)計画熟度が低く規模すらも決まっていないような段階に計画段階配慮を実施する場合にも、事業として想定し得る範囲内でバ リエーションをつけた複数案を設定することが望ましい。こうしたケースでは、設定する複数案の中に最終案となる案が含まれ
		ないこともあり得る。 (4)計画段階配慮において設定する複数繁件 その認定の考え方について誇明されるトンが望すしい
		この政たシカイグにフィーがのにおうここだすることが望ましい。 (定することが望ましい。 (定数)
	ゼロ・オプショ	ンは、法対象事
	ン(事業を実施	結果である BAU (Business As Usual) はゼロ・オプションには該当し、
	しない案)の取品、	響を把握する上で有効である。これである。これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、
	が、 複数案を設定し	(3)後数米ジュンにお刈氷手来性分かり手来による米が改たられる物口は、これをとして、カノノヨイとして収扱り。 (1)計画段階配慮では複数案を設定することを基本とするが、事業特件・地域特件から複数案を設定することが現実的でない場合
		にはやむを得ず単一案となる場合もある。ただし、単一案の場合には複数案を設定できなかった理由を示すことが必要である。
	複数段階で配慮	(1)複数段階で配慮書案を作成する場合には、それぞれの段階で設定する複数案について、環境面の検討経緯を示すことが望まし
	書案を作成する	°CA
調査、予測、評価		(1)重大な影響の恐れのある環境要素は、事業特性、地域特性を勘案して設定することを基本とする。
の対象範囲	へれのある城垣 囲歩 (曲十た語)	(2)事業による負の影響だけではなくブラスの効果をもたらす影響についても積極的に対象とすることが望ましい。 (3)~ゎキェの電音影響評価等の宝簿を欧キシア BTA BB&での電音保全排置に下り回避・体域が可能と考ったれる項目や 影響
		※ 音: 面も・・・ 人気ら至って、・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
	○ 型 型 型 型 型 型 型 型 型 型 型 型 型	25.25であるようでは、1975年では、1975年の内では1975年では、1975年である。 (1) 計画の限制度の対象とかる程倍面表は、其末的車項の別表に掲げる程倍面表の区分及77影響面用の区分に従ってと多其末とす
	n 回校届品施り 対象となる環境 要素	ムネによる米光女ボは、毎午むず分グガガに向こる米光女ボツロガ及じが骨女囚ジロガににノーこり出午に終ごとに異なるので主務省令を確認する。
	工事の影響の取 り扱い	(1)工事の実施に係る影響要因の区分については、工事による影響の重大性に着目して、必要に応じて選定する。ただし、計画熟度が低い段階では工事による影響の把握が困難な場合もあることに留意する。
調査、予測、評価 の手法	調査、予測及び野価の手法の選	(1)調査、予測及び評価の手法の選定に当たっては、事業による重大な環境影響の程度及び当該環境影響が回避され、又は低減さ もる効用の細度な適何に抽損なきましるに選やする。また、選定の細性を明られてする
11	日言づ十分で角に	4で3分米が住皮を過ぎた12度ときるまプに磨たする。また、歯たが生用を引りがたする。 (2)予測は、科学的知見の蓄積や既存資料の充実の程度に応じ、また、計画熟度に応じ、可能な限り定量的に行うことに努める。
		手法の選定にあたっては環境要素間の関係に留意する。 評価の手法の選定に当たっては、必要に応じ専門家等の助言を受けること等により客観的かつ科学的な検討

日 皋 啓	(1)既存資料の収集に際しては、資料が作成された時期及び資	 7 (1)予測、評価に必要十分な情報を既存資料から収集することが困難な場合や収集した情報について妥当性や重要性の確認が必要 意 な場合があることから、専門家等へのヒアリングにより情報の確認や補完を行うことが望ましい。 (2)環境影響評価手続における透明性の向上の観点から、ヒアリング対象者の所属機関の属性(公的研究機関、大学等)を明らかにすることが望ましい。 (3)現地踏査や現地調査は、専門家へのヒアリング結果等を踏まえ、実施の必要性を検討する。 	 取 (1)予測は、科学的知見の蓄積、既存資料の充実の程度、事業計画の熟度等に応じ、可能な限り定量的に行うことに努め、それが 困難な場合には定性的に行う。 性 (1)計画段階配慮での予測には不確実性が一定程度存在する可能性があるため、不確実性を生じさせる要因と不確実性の程度を整理することが望ました。 	(1)	響 (1) 重大な環境影響の要素について複数案で差異がなく、その他の環境要素で複数案に際立った差異がある等の場合には、重大な 要 環境影響の要素以外の要素についても可能な限り比較整理を行う。 	・の (1)単一案の場合の評価方法は、事業計画の熟度が高い場合など、可能な場合は EIA に準じた方法で、調査、予測及び評価を行う 	配慮書作成にあたり、後の EIA 段階において以下の 5 項目に活用することを念頭におくことが必要である。 (1) 事業計画の説明への活用 (2) スコーピングへの活用 (3) 調査結果(データ)の活用 (4) 予測結果の活用 (5) 環告影響の同業・体域の諮問への注用
1 1 1	… 既存資料の収集 整理の留意点	専門家へのヒア リング等の留意 点	定性的予測の取り扱い り扱い 予測の不確実性 の取扱い	重大な環境影響 の比較整理	重大な環境影響 の要素以外の要 素の取り扱い	単一案の場合の 評価方法	ティアリング
72	調査、予測、評価の手法						ティアリング

(a) 位置・規模の複数案

・事業の早い段階では、事業の位置や規模に関する複数案の設定が可能であり、重大な 環境影響の回避・低減が効果的に行われることが期待できる。

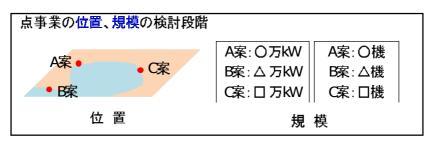


図 1-1 点事業における位置、規模の検討段階のイメージ

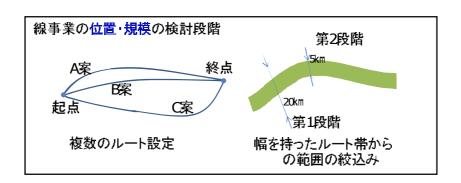


図 1-2 線事業における位置・規模の検討段階のイメージ

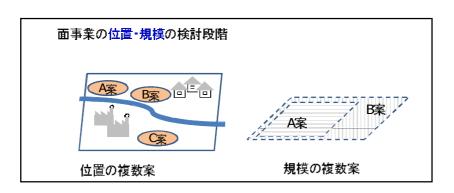


図 1-3 面事業における位置、規模の検討段階のイメージ

(b) 配置・構造の複数案

・事業の位置・規模が決定している段階では、事業実施想定区域内の土地利用や施設の 配置等に関する複数案を設定し、環境への影響を回避・低減を検討することが考えら れる。例えば、廃棄物最終処分場事業では、施設の配置や土地利用の割合等、ある程 度の制約条件下での複数案の設定が想定される。

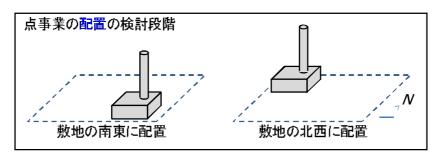


図 1-4 点事業における配置の検討段階のイメージ

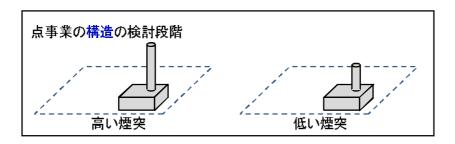


図 1-5 点事業における構造の検討段階のイメージ

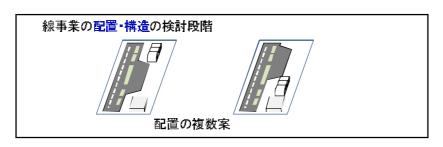


図 1-6 線事業における配置・構造の検討段階のイメージ

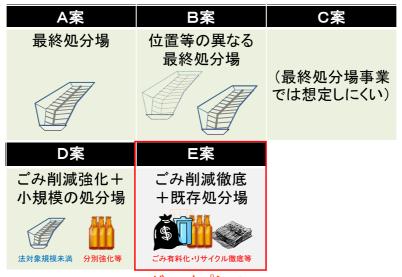
※線事業について、主務省令の規定上、配置及び構造に係る複数案を検討しうるのは林野庁が所管 する林道事業及び防衛省が所管する飛行場事業のみであることに留意する。 の修正により法アセス規模要件を下回る」というケースは、「事業を実施しない案」には含まれない。

複数案 -

- A 1つの計画案
- B Aと位置等の異なる案
- C Aと異なる法対象事業種で事業目的を達成する案
- D 環境影響評価法の対象規模要件未満の案
- E 法対象事業種の事業を実施せずに事業目的を達成する案 ゼロ・オプション
- F 現状や現状推移結果であるBAU(Business As Usual) ※1
- G 事業者自らが提供できない施策により事業目的を達成する案 や、非現実的な案 -------複数案でもゼロ・オプションでもない ~

※1)「現状」や「BAU」は一般に事業目的を達成しうる複数案の一つとして設定されない場合

図 1-9 複数案とゼロ・オプションの考え方について



ゼロ・オプション

図 1-10 複数案やゼロ・オプションの考え方の模式図 (最終処分場事業の例)

- ・上記の模式図は環境面からの複数案、ゼロ・オプションの考え方を記したものであり、 現実的ではない複数案やセロ・オプションを無理に設定する必要は無い。
- ・計画段階配慮を実施する際は事業種ごとのアセスのガイドライン・マニュアル等を参 考にし、個別の事業特性・地域特性を考慮し適切な複数案やゼロ・オプションを設定 する。

技術ガイド各論編 健康・生活環境等の技術手法 概要

業計画の位置関係。 ・ 角染土壌発生の可能性を把握。 ・ 廃棄物の発生量、温室効果ガスの排制策によって複数の子側手法を適用する必要はない。 ・ 海薬土壌の分布状況の把握。 ・ 事業計画を基に、原単位法、土壌との重ね合わせによる。 ・ 地形改変量(面積、量、勾配等) ・ 温室効果ガスの抑制策を整定対して複数の子側手法を適用する必要はない。 ・ 地形改変量(面積、量、勾配等) ・ 温室効果ガスの抑制策を整め子側 ・ 地形改変量(面積、量、勾配等) ・ 温室効果ガスの抑制策を整め子側 ・ 地形改変量(面積、量、勾配等) ・ 1 電室効果ガスの抑制策を整め子側 ・ 地形改変量(面積、量、勾配等) ・ 1 電室効果ガスの抑制策を整め子側 ・ 地形改変量(面積、量、勾配等) ・ 1 電室効果ガスの抑制策を整め子側 ・ 地形改変量(面積、量、勾配等) ・ 1 電空効果ガスの抑制策を整め子側 ・ 地形改変量(面積、量、均配等) ・ 1 電空効果ガスの抑制策を整め子側 ・ 地形改変量(面積、量、均配等) ・ 1 電空効果ガスの抑制策を整め子側 ・ 複数案毎に予測結果を比較整子 ・ 複数案毎に予測結果を比較整子が ・ 複数を毎に予測結果を比較を発生する。 ・ 複数の評価指標を用いた場合 ・ 複数を毎に予測結果を比較整理する ・ 複数の評価指標を用いた場合 ・ 複数の評価指標を用いた場合 ・ 複数を毎に予測結果を比較 ・ 複数を毎に予測結果を比較整 ・ は数の評価指標を用いた場合 ・ 複数を毎に予測結果を比較 ・ 複数を毎に予測結果を比較整 ・ 複数を毎に予測結果を比較整 ・ 複数を毎に予測結果を比較を ・ 複数を毎に予測結果を比較を ・ 複数を毎に予測結果を比較を ・ 複数を毎に予測結果を比較を ・ 複数を毎に予測結果を比較を ・ 複数を毎に予測結果を比較を ・ 複数を毎に予測結果を比較を ・ 複数を毎に予測結果を比較を ・ 複数を毎に予測結果を比較を ・ 複数を毎に予測結果を比較 ・ 複数を毎に予測結果を比較を ・ 複数を毎に予測結果を比較を ・ 複数を毎に予測結果を比較を ・ 複数を毎に予測結果を比較を ・ 複数を毎に予測結果を比較 を ・ 複数を毎に予測結果を比較 を ・ 複数を毎に予測結果を比較 を ・ 複数を毎に予測結果を比較 を ・ 複数を毎に予測にないた。 ・ 1 に環境影響の観点からの特像をとりまとめる
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
・重要な地形・地質、重要な土 (乗の把権) ・地形の改変の程度の把権 ・汚染土壌の分布状況の把権 り影・事業計画と重要な地形・地質、 上壌との重ね合わせによる ・地形改変量(面積、量、勾配等) ・治む・の予測 ・地形改変量(面積、量、勾配等) ・治数条毎に予測結果を比較整 て河 土壌の発生の可能性、発生量を 予測 規模との重ね合わせにより ・事業計画と汚染土壌の位置、 ・海数条毎に予測結果を比較整 し、・複数条毎に予測結果を比較整 に対し、不確実性の要因について は、不確実性の要因について は、本種数容が高い。 ・複数の評価指標を用いた場合 にはこれらを総合的に勘案して 環境影響の観点からの特徴をと りまとめる
・ 車架な地形・地貨、 車要な工 嫌の把権
画の ・ 汚染土壌の分布状況の把握
9般 ・事業計画と重要な地形・地質、 土壌との重ね合わせによる ・地形改変量(面積、量、勾配等) つ予測 ・事業計画と汚染土壌の位置、 ・消 規模との重ね合わせにより汚染 で河 土壌の発生の可能性、発生量を 予測 で河 土壌の発生の可能性、発生量を 予測 にまなってでで、 ・複数条毎に予測結果を比較整 し、・複数条毎に予測結果を比較整 に、不確実性の要因について 整理する の観、・な数の評価指標を用いた場合 にはこれらを総合的に勘案して 環境影響の観点からの特徴をと りまとめる
出類との重ね合わせによる ・地形改変量(面積、量、勾配等) 合む の予測 によ ・事業計画と汚染土壌の位置、 予測 規模との重ね合わせにより汚染 で河 土壌の発生の可能性、発生量を 予測 し、・複数案毎に予測結果を比較整 は、不確実性の要因について はこ 整理する の観 ・複数の評価指標を用いた場合 にたれらを総合的に勘案して 環境影響の観点からの特徴をと りまとめる
(でまた) の子別 (おより) (おり) (おり) (おり) (おり) (はまま) (はままりまとめる) (はまからの特徴をとりまとめる)
によ ・事業計画と汚染土壌の位置、 予測 規模との重ね合わせにより汚染 て河 土壌の発生の可能性、発生量を 予測 し、・複数案毎に予測結果を比較整 は、 整理する はこ 整理する の観 ・複数の評価指標を用いた場合 にはこれらを総合的に勘案して 環境影響の観点からの特徴をと りまとめる
が保との単42日がまたようび来上域の発生の可能性、発生量を予測・複数案毎に予測結果を比較整理し、不確実性の要因について整理する。 複数の評価指標を用いた場合にはこれらを総合的に勘案して環境影響の観点からの特徴をとりまとめる
1、 で数案年に予測結果を比較整理し、不確実性の要因についてはこ 整理する 2 を表めがでは、 はこ 整理する 2 を表めがでは、 の親・複数の評価指標を用いた場合にはこれらを総合的に勘案して環境影響の観点からの特徴をとりまとめる 9まとめる
理し、不確実性の要因について 整理する ・複数の評価指標を用いた場合 にはこれらを総合的に勘案して 環境影響の観点からの特徴をと りまとめる
・ 種女/ あかる ・ 複数の評価指標を用いた場合 にはこれらを総合的に勘案して 環境影響の観点からの特徴をと りまとめる
にはこれらを総合的に勘案して 環境影響の観点からの特徴をと りまとめる
※処影音の観示がらい付限でこ りまとめる
0
、 ・EIA 等の事業の熟度が高くな
った段階で、再度予測を実施す
5性を低減する

魏
の技術手法
自然環境等の
ド各酯縮
技術ガイ

重大な影響とつい (工業な商権の進化 (大き) (1999) (1994) (19			,,	人と自然との豊かな触れ合い
************************************		動物・植物	生膨糸	(景観・触れ合い活動の場)
(2) など痛があるとする祖、中で記の規模で調査及び予測・評価の対象とする祖、東大台等により指定された相等 * 株式機形像を受けやすい種等 * 株式機形像を受けやすい種等 * 株式機形像を受けやすい種等 * 株式機形像を受けやすい種等 * 株式機形像を受けやすい種等 * 株式機形像を受けやすい種等 * 株式機形像を受けやすい場 * 地域により活出されている種等 * 地域により活用されている種等 * 地域により活用されている種 ・ 「成婚的な視点から地域特性を把握する範囲を設定 ・ 「成婚的な視点から地域特性を把握する範囲を設定 ・ 「の調査・指している種等によりない。」 ・ 「の調査・経験・ 「のままない。」 ・ 「・ 「・ 「・ 「・ 」」を関係のを表して、 「	重大な影響につい		とまりの場の選定	○重要な景観、触れ合い活動の場の選定
# 東京館等を遊走 * 東京館等を遊走 * 未建成により注目されている編等 * 米氏分等により指目されている編等 * 米田城により注目されている編等 * 米田城により注目されている編等 * 中域により注目されている編等 * 中域により注目されている編等 * 中域により注目されている編等 * 中域により注目されている編等 * 中域により注目されている編等 * 中域により注目されている編号 * 中域により注目されている場をです。 「 「	て比較検討するた	・評価の対象とする	の対象とする	・下記の視点で調査及び予測・評価の対象とす
# * *環境影響を全分ですいる構築 * *環境影響を全分ですい場 * *環境影響を全分ですいる構築 * * * * * * * * * * * * * * * * * * *	めの視点	要な種等を選定	要な自然環境のまとまりの場を選定	る重要な自然環境のまとまりの場を選定
* 法令等により注目されてある。 * 法令等により注目されている編 * * 法の参により注目されている編 * * 地域により注目されている編 * * 地域により注目されている編 * * 地域により注目されている編 * * 地域により注目されている編 * * 地域により注目されている場 * ・	(評価指標)	*環境影響を受けやすい種等	*環境影響を受けやすい場	*環境影響を受けやすい地域又は対象
○調査部項 ○調査部項 ○ (回動産剤 ○ (回動産剤 ○ (回動産剤 ○ (回動産剤 ○ (回動産剤 ○ (回動産剤 ・) (回動産事法 ○ (回動産事法 ○ (回動産事法 ○ (回動産事法 ・) (回動産事法 ・) (回動産事法 ・) (回動産事法 ・) (回動産事法 ・) (回事なから権報の質や量、地域により注目されて ・) (回事なから権報の質や量、地域により注目されて ・) (の可家から権報の質や量、地域により注目されて ・) (の可家の) (の可容の) (の		*法令等により指定された種等	* 法令等により指定された場	*法令等により指定された地域又は対象
 ○調査範囲 ○財産範囲 ○財産を開発が急速を指揮する範囲を設定 ・広域的な視点から地域特性を把握する範囲を設定 ・広域的な視点から地域特性を把握する範囲を設定 ・既存資料から重要な種等のリストと分布情報を収 ・時間家から情報の質や量、地域により注目されている種等について助言・意見を受ける ・財産資料と専門家の助言から把握できる地域特性 ・原存資料と専門家の助言から把握できる地域特性 ・財産資料と専門家の助言から把握できる地域特性 ・財産的な整めの指定を検討する ・事業による重要な種等の工具・生育場所の改変の ・事業による重要な種等の上患・生育場所の改変の ・事業による重要な種等の上患・生育場所の改変の ・事業による重要な種等を利削する ・住息・生育条件の関値など個々の重要な種等の生 ・成型な経験の有無を予削する ・に整理する ・配本の重要な自然を適りたの影響など広域的な視点に に整理する ・ に整理する ・ 配本の重要な信等に対する影響の有無を静極の推定・主力の場の政変の程度、 ・ に整理する ・ 配本の重要な情等と予測する ・ に整理する ・ 配本を手続での調査・予測する ・ に整理する ・ 配本を持住に関するの場では ・ のの事業など広域的な視点に ・ 配本を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を		*地域により注目されている種等	*地域により注目されている場	*地域により注目されている対象
 広域的な視点から地域特性を把握する範囲を設定 - 広域的な視点から地域特性を把握する範囲を設定 - 広域的な視点から地域特性を把握する範囲を設定 - 医内容から 無理があることを基本とする - 専門家から情報を収集・整理・解析することを基本とする - 専門家から情報を収集・整理・解析することを基本とする - 専門家から情報の質や量、地域により注目されている 中間家から情報の質や量、地域により注目されている 「中間家から情報の質や量、地域により注目されている 「中間家から情報の質や量、地域により注目されている 「中間家から情報の質や量、地域により注目されている 「中間家から情報の質や量できた。 「中間家の助言から把握できる地域特性と と事業特性に基づき、解析的な手法、現地踏査、現立を基本と専門家の助言から把握できる地域特性と と事業特性に基づき、解析的な手法、現地踏査、現 上間、生態な自動での変換を検討する 中間を介別の方無を予測する 中間を介別の方無を予測する 中間を介別の方無を予測する 一直大な影響の有無を予測する 一直大な影響の有無を予測する 一直大な影響の有無を予測する 一直大な影響の有無を予測する ・値を発表の上で影響を予測する ・値を発表をして整理する ・値を発表の手に対する影響の有無を発動の有無を発動の有無を発動の有無を発動の有無を発動を発展して影響を予測する ・重大な影響の有無を予測の不確実性について、各種子、一直大な影響の有無や予測の不確実性の要に関する知识など予測の不確実性の要に関する知识など予測の不確実性について、各種数素の特徴として整理する ・重大な影響の有無や予測の不確実性の要に関する知识などの予測の不確実性について、各種主な 一直大な影響の有無や予測の不確実性の要に関する知识などの予測の不確実性について、各種数素の特徴として整理する ・重大な影響の有無や予測の不確実性について、各種主な 一直大な影響の有無や予測の不確実性について、各種主な 一直大な影響の有無や予測の不確実性について、各種主な 一直大な影響の有無や予測の不確実性について、と IA 段階を必ず的に実施できる 一直大な影響の有無や予測の不確実性について、と IA 段階を必ず的に実施できる 一直大な影響の方にをきる 一直大な影響の方にをを必ず的に対してきる 一定不要に対していてきる 一定を表示の分断等の残される影響や予測の不確実性につきる 一定を表示の分断等の残される影響や予測の不確実性につきる 一定を表示の分断等の後をなる影響や予測の不確実性につきる 一定を表示の分析を対していていての整理を IA 段階等での調査に反映し、予測を提出を必ず的に向上できる 一定を表示の分解等の検索を対しに向上できる 一定を表示の分解すの検索をの表にの表にの表にの表にの表にの表にの表にの表にの表にの表にの表にの表にの表にの	調査方法 人 夕	. ○調査範囲		〇調査範囲
・ 関右音法	>	・広域的な視点から地域特性を把握する範囲を設定	・広域的な視点から地域特性を把握する範囲を設定	・事業計画の特性、地域の類型を考慮し、地域
### ### ### ### ### ### ### ### ### ##		○調査手法	○調査手法	特性を把握する範囲を設定
集・整理・解析することを基本とする ・ 専門家から情報を収集・整理・解析することを基本とする ・ 専門家から情報の質や量、地域により注目されて いる種等について助言・意見を受ける ・ 既存資料と専門家の関告から把握できる地域特性 と事業特性に基づき、解析的な手法、現地踏査、現 ・ 地調企ん必要性を検討する ・ 投充影響の有無をを持する ・ 大な影響の有無を予測する ・ 仕島・生着条件の関値など個々の重要な種等の生 ・ は見地の大事と予測する ・ 個々の重要な種等に大き重要な自然環境のまとまりの場の改変 ・ はし、生育場所の改変の ・ はた影響を予測する ・ はし、生育場所の改変の ・ はた影響を予測する ・ はし、生育場所の改変の程 ・ がない・維持条件、存在期間などは対けな最高 ・ に留意して影響を予測する ・ は他の主要な種等に対する影響の有無を複数案毎に繋埋する ・ は他の主要な種等に対する影響の有無を複数案毎に整理する ・ はた影響の有無をを複数を発に関する知りな確実性の要 に関立して影響を予測する ・ は他の主要な種等に対する影響の有無を複数案毎に繋弾を予測する ・ はた影響の有無を複数等を ・ はた影響の有無を複数等を ・ はた影響の有無を複数等を ・ はた影響を予測する ・ はた影響を予測の不確実性の要 に関する知見などの予測の不確実性の要に関する知るに変速である影響や予測の不確実性の要に関する知見などの予測を決定を発表を指して整理する ・ はたいての整理を EIA 段階等での調査に反映し、予 ・ は態なの分断等の残される影響や予測の不確実性 ・ はたいての整理を EIA 段階等での調査に反映し、予 ・ はたいての整理を EIA 段階等での調査に反映し、予 ・ はたいての整理を EIA 段階等での調査に反映し、予 ・ 知や保全措置の検討の精度を効果的に向上できる ・ 知や保全措置の検討の精度を効果的に向上できる ・ 知や保全措置の検討の精度を効果的に向上できる ・ 知や保全措置の検討の情度を効果的に向上できる ・ 知や保全措置の検討の情度を効果的に向上できる		既存資料から重要な種等のリストと分布情報	・既存資料から重要な自然環境のまとまりの場の分	〇調査手法
・専門家から情報の質や量、地域により注目されて ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・		集・整理・解析することを基本とする	布情報を収集・整理・解析することを基本とする	・既存資料から重要な景観、触れ合い活動の場
いる種等について助言・意見を受ける 地域特性 - 既存資料と専門家の助言から把握できる地域特性 - 既存資料と専門家の助言から把握できる地域特性 - 既存資料と専門家の助言から把握できる地域特性 - 既存資料と専門家の助言から把握できる地域特性 - 財政の企業権の計画 - 事業による重要な権等の子法、現地踏査、現地踏査、現地踏査の必要性を検討する - 事業による重要なイ無を全検討する - 事業による重要なイ無を全検討する - 事業による重要なイ無をを検討する - 事業による重要なイ質を検討する - 中華には - 生息・生育条件の関値など個々の重要な種等の - 事業による重要な自然環境のまとまりの場の改変 - 年息・生育条件の関値など個々の重要な種等の - 事業による重要な自然環境のまとまりの場の改変 - 年息・生育条件の関値など個々の重要な種等の - まとまりの場の存性に関立、 - 一位を担立ネットワークへの影響など広域的な視点に - 一位の - 一位を担立ネットワークへの影響など広域的な視点に - 一位の - 一位を担する - 一位を担立を - 一位を手続での調査に - 一位を手続での調査に - 一位を手続での調査に - 一位を手続で - 一位を手続で - 一位を担立を - 一位を -		や量、地域により注目さ	・専門家から情報の質や量、地域により注目されて	の分布情報を収集・整理・解析することを基本
・既存資料と専門家の助言から把握できる地域特性 ・既存資料と専門家の助言から把握できる地域特性 と事業特性に基づき、解析的な手法、現地踏査、現 地調査の必要性を検討する ・事業による重要な種等の生息・生育場所の改変の ・事業による重要な種等の生息・生育場所の改変の ・事業による重要な種等の生息・生育場所の改変の ・生息・生育条件の関値など個々の重要な種等の生 ・な影響を予測する ・生息・生育条件の関値など個々の重要な種等の生 ・は息地のネットワークへの影響など広域的な視点 に紹理する ・初本状況の権定手法、生息・生育場所の改変の程 ・場立の重要な種様に関する知見など子測の不確実性の要 に整理する ・分布状況の権定手法、生息・生育場所の改変の程 ・場の分布の推定手法、場の改変の程度、場の特性 図について整理する ・重なり割の不確実性の要 を関する ・重ななり ・動の分布の推定手法、場の改変の程度、場の特性 を関する ・重なな自然環境の主きりの場の不確実性の要 を関する ・動なの有無を予測の不確実性の要 を関する ・重なな自然を関いまして表現する ・事を複数案毎に整理する ・事を表別の不確実性の要 を関する ・事を表別の不確実性 ・事を表別の不確実性 ・事を表別の不確実性 ・事を表の特徴として整理する ・事を表別の不確実性 ・事を表の特徴として整理する ・事を表別の不確実性 ・事を表別の不確実性 ・事を表別の不確実性 ・事を表の特徴として整理する ・事を表別の不確実性 ・事を表別の不確実性 ・事を表の特徴として整理する ・事を表の特徴として整理する ・事を表別の不確実性 ・事を表別の不確実性 ・まに知ら断等の検される影響や予測の不確実性 についての整理を にないての整理を に対して についての整理を に対して にいまして を関する ・まに対して を関する ・まに対した ・まに対して ・まを表の ・まを表して ・まを		いる種等について助言・意見を受ける	いる場等について助言・意見を受ける	とする
と事業特性に基づき、解析的な手法、現地踏査、現 と事業特性に基づき、解析的な手法、現地踏査、現地調査の必要性を検討する ・ 事業による重要な種等の生息・生育場所の改変の・ 事業による重要な自然環境のまとまりの場の改変 ・ 生息・生育条件の関値など個々の重要な種等の生ませる場合を開する ・ 生息・生育条件の関値など個々の重要な種等の生ますりの場の特性に留意して影響を予測する ・ 生息・生育条件の関値など個々の重要な種等の生ますりの場の特性に留意して影響を予測する ・ 生息地のネットワークへの影響など広域的な視点・ 生態系ネットワークへの影響など広域的な視点に に程意して影響を予測する ・ 生息地のネットアークへの影響など広域的な視点・ 主要な自然環境のまとまりの場に対する影響の有無を複数案毎に整理する ・ ・ 重要な自然環境の主とまりの場に対する影響の有無を複数案毎に整理する ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・		・既存資料と専門家の助言から把握できる地域特性	・既存資料と専門家の助言から把握できる地域特性	・資料により情報が得られない場合に専門家等
### ### ### ### ### ### ### ##########		と事業特性に基づき、解析的な手法、現地踏査、現	と事業特性に基づき、解析的な手法、現地踏査、現	へのヒアリング、さらに現地路査、現地調査の │
・事業による重要な種等の生息・生育場所の改変の ・事業による重要な自然環境のまとまりの場の改変 程度(直接的、間接的な影響)について把握し、重 向程度(直接的、間接的な影響)について把握し、 生息・生育条件の閾値など個々の重要な種等の生 。 成立・維持条件、存在期間など重要な自然環境の 生息地のネットワークへの影響など広域的な視点 。 に整理する ・ 日本の表とではではなりな視点 に に整理する ・ 日本の表とではできるの程をを予測する ・ 1 を		地調査の必要性を検討する	地調査の必要性を検討する	必要性を検討する
程度(直接的、間接的な影響)について把握し、重 の程度(直接的、間接的な影響)について把握し、	予測方法 7 5	・事業による重要な種等の生息・生育場所の改変の	・事業による重要な自然環境のまとまりの場の改変	・事業による重要な景観管源、眺望点、触れ合
大な影響の有無を予測する またまりの場の有無を予測する まとまりの場の特性に留意して影響を予測する まとまりの場の特性に留意して影響を予測する ・ 住島・生自・生き・中での影響など広域的な視点 ・ 住島・大な影響を予測する ・ 生態を予測する ・ 生態を予測する ・ 生態を予測する ・ 生態を予測する ・ 生態を予測する ・ 生態を予測する ・ ・ ケールの影響など広域的な視点 ・ ・ ケールの影響など広域的な視点に ・ ・ ケールの影響など広域的な視点に ・ ・ ケールの影響を予測する ・ ・ ケールの影響を予測する ・ ・ ケールが、の推定手法、生息・生育場所の改変の程 ・ ・ ・ ・ ケールで発理する ・ ・ ケールで発理する ・ ・ ケールで発理する ・ ・ ケールが、の推定手続での調査・予測の不確実性の要に関する知見など予測の不確実性の要に関する知見など予測の不確実性の要に関する知見など予測の不確実性の要に関する知見など予測の不確実性の要に関する知見など予測の不確実性の要に関する知見などの調査をの調査、予測及び評価の結果を活用 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・			の程度(直接的 間接的な影響)について押据し	
- 生息 中の 1 まできた 1 個 2 の重要な種等の生 で		このだっている。	ショダ(可该ご)の攻ご・多グー(こう)、こうロッ・田士な史簿(石庫な牙道デス	、 11対シ%交のであり、シャイに、Hシグダくの年中な甘志し 年十な男簿の右伸なと当上の
・生息・生胃条件の胸間など間をひ見姿な種等の生 ・生息・上胃条件の胸間など間を ・生息・レスシーケーの影響など広域的な視点 ・生息地の分解等の有無を複数案毎 ・重要な自然環境のまとまりの場の存在を ・動の分布の推定手法、場の改変の程度、場の特性に のこかいて整理する ・重大な影響の有無や予測の不確実性について、各 を ・重大な影響の有無や予測の不確実性について、各 を ・直大な影響の有無や予測の不確実性について、各 を ・直大な影響の有無や予測の不確実性について、各 を ・直大な影響の有無や予測の不確実性について、各 を ・直大な影響の有無や予測の不確実性について、各 を ・直大な影響の有無や予測の不確実性について、各 を ・直大な影響の有無や予測の不確実性について、各 を ・重大な影響の有無や予測の不確実性について、各 を ・重大な影響の有無や予測の不確実性について、各 を ・重大な影響の有無や予測の不確実性について、各 を ・重大な影響の有無や予測の不確実性について、各 を ・重大な影響の有無や予測の不確実性について、各 を ・重大な影響の有無や予測の不確実性について、各 を ・重大な影響の有無や予測の不確実性について、各 を ・重大な影響の有無や予測の不確実性について、各 を を ・重大な影響の有無や予測の不確実性について、各 を を ・重大な影響の有無や予測の不確実性について、各 を を ・重大な影響の有無や予測の不確実性について、各 を を ・重大な影響の有無や予測の不確実性について、各 を を を ・重大な影響の有無や予測の不確実性 ・配慮書手続での調査、予測及び評価の結果を活用 ・配慮書手続での調査、予測及び評価の結果を活用 ・上息地の分断等の残される影響や予測の不確実性 についての整理を EIA 段階等での調査に反映し、予 についての整理を EIA 段階等での調査に反映し、予 別や保全措置の検討の精度を効果的に向上できる 別や保全措置の検討の精度を効果的に向上できる 別や保全措置の検討の精度を効果的に向上できる 別や保全措置の検討の精度を効果的に向上できる 別や保全措置の検討の精度を効果的に向上できる 別や保全措置の検討の精度を効果的に向上できる 別や保全措置の検討の精度を効果的に向上できる 別や保全措置の検討の精度を効果的に向上できる 別や保全措置の検討の精度を効果的に向上できる		- 1/4を加いて活のし返り。 - 4年次年を日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日	明人なが加いているしなり。 より、余末を写、七十書品や3.4円でも毎百分	- AHX GIUM O/H/AKHA/Ain G A Z A A A H 米当里の単元が立い日くでは、日本の日田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田
 ・生息地のネットワークへの影響など広域的な視点 ・生態系ネットワークへの影響など広域的な視点 ・生息地のネットワークへの影響など広域的な視点 ・生息地のネットワークへの影響など広域的な視点 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・		・ 年息・ 年育条件の関値など個々の重要な種等の生 ************************************	・成立・維持条件、存仕期間など重要な目然境境の	・事業計画の熟度か高い場合には、眺望景観の
 ・生息地のネットワークへの影響など広域的な視点 ・生態系ネットワークへの影響など広域的な視点に に留意して影響を予測する ・ 重要な自然環境のまとまりの場に対する影響の有無を複数案毎 ・ 重要な自然環境のまとまりの場に対する影響の有無を複数案毎に整理する ・ 場の分布の推定手法、生息・生育場所の改変の程 に関する知見など予測の不確実性の要 整理する ・ 重大な影響の有無や予測の不確実性について、各 を重大な影響の有無や予測の不確実性について、各 を重大な影響の有無や予測の不確実性について、各 を重大な影響の有無や予測の不確実性について、各 を重大な影響の有無や予測の不確実性について、各 を重大な影響の有無や予測の不確実性について、各 を重大な影響の有無や予測の不確実性について、各 を重大な影響の有無や予測の不確実性について、各 を重大な影響の有無や予測の不確実性について、各 を重大な影響の有無や予測の不確実性について、各 を重ける ・ 重大な影響の有無や予測の不確実性について、各 を対案の特徴として整理する ・ 重大な影響の有無や予測の不確実性 ・ に、EIA 段階を効率的に実施できる ・ 生態和の分断等の残される影響や予測の不確実性 選定等を効率的に実施できる ・ 生態和の分断等の残される影響や予測の不確実性 選定等を効率的に実施できる ・ 生態系の分断等の現される影響や予測の不確実性 選定等を効率的に実施できる ・ 生態系の分断等の対域を必要理を EIA 段階等での調査に反映し、予 についての整理を EIA 段階をでの調査に反映し、予 についての整理を EIA 段階をでの記述を EIA 段階を EIA 接近を EIA 接近を EIA 接近を EIA 接近を EIA 接近を EIA 長間を EIA 接近を EIA 接近を EIA 長間を EIA 接近を EIA 長間を EIA 接近を EIA 長間を EIA 接近を EIA 接近を EIA 長間を EIA 接近を EIA 長間を EIA EIA EIA EIA EIA EIA EIA EIA EIA EIA		態特性に留意して影響を予測する	まとまりの場の特性に留意して影響を予測する	の程度
 に留意して影響を予測する ・個々の重要な種等に対する影響の有無を複数案毎 ・値々の重要な種等に対する影響の有無を複数案毎 ・分布状況の推定手法、生息・生育場所の改変の程 ・分布状況の推定手法、生息・生育場所の改変の程 ・場の分布の推定手法、場の改変の程度、場の特性との予測の不確実性の要因について、基理する ・直大な影響の有無や予測の不確実性について、各 ・直大な影響の有無や予測の不確実性について、各 ・直大な影響の有無や予測の不確実性について、各 ・直大な影響の有無や予測の不確実性について、各 ・直大な影響の有無や予測の不確実性について、各 ・直大な影響の有無や予測の不確実性について、各 ・立た影響の有無や予測の不確実性について、各 ・重大な影響の有無や予測の不確実性について、各 ・重大な影響の有無や予測の不確実性について、各 ・重大な影響の有無や予測の不確実性について、各 ・重大な影響の有無や予測の不確実性について、各 ・重大な影響の有無や予測の不確実性について、各 ・主息地の分断等の残される影響や予測の不確実性 選定等を効率的に実施できる ・生息地の分断等の残される影響や予測の不確実性 選定等を効率的に実施できる ・生態系の分断等の残される影響や予測の不確実性 選定等を効率的に実施できる ・生態系の分断等の残される影響や予測の不確実性 選定等を効率的に実施できる ・生態系の分断等の残される影響や予測の不確実性 通や保全措置の検討の精度を効果的に向上できる 測や保全措置の検討の精度を効果的に向上できる 測や保全措置の検討の精度を効果的に向上できる 測や保全措置の検討の精度を効果的に向上できる 測や保全措置の検討の精度を効果的に対する 製や保全措置の検討の精度を効果的に対してきる 		のネットワークへの影響など広域的な視	生態系ネットワークへの	予測寸
 ・ 個々の重要な種等に対する影響の有無を複数案毎 ・ 企整理する ・ 分布状況の推定手法、生息・生育場所の改変の程 ・ 場の分布の推定手法、場の改変の程度、場の特性として整理する ・ 互大な影響の有無や予測の不確実性の要別に関する知見などの予測の不確実性の要因について、各を重大な影響の有無や予測の不確実性について、各を重する ・ 直大な影響の有無や予測の不確実性について、各を重する ・ 正人な影響の有無や予測の不確実性について、各を数案の特徴として整理する ・ 正人な影響の有無や予測の不確実性について、各を数案の特徴として整理する ・ 正人な影響の有無や予測の不確実性について、各を数素の特徴として整理する ・ ・ 配慮書手続での調査、予測及び評価の結果を活用・配慮書手続での調査、予測及び評価の結果を活用・配慮書手続での調査、予測及び評価の結果を活用・配慮書手続での調査、予測及び評価の結果を活用・配慮書手続での調査、予測及び評価の結果を活用・配慮書手続での調査、予測及び評価の結果を活用・配慮書手続での調査、予測及び評価の結果を活用・配慮書手続での調査、予測及び評価の結果を活用・配慮書手続での調査、予測及び評価の結果を活用・配慮書手続での調査、・ に1 段階を効率的に実施できる ・ 生息地の分断等の残される影響や予測の不確実性 選定等を効率的に実施できる ・ 生態系の分断等の残される影響や予測の不確実性 強定等を効率的に実施できる ・ 生態系の分断等の残される影響や予測の不確実性 はまえの分断等の検討の精度を効果的に向上できる 測や保全措置の検討の精度を効果的に向上できる 		に留意して影響を予測する	留意して影響を予測する	
 に整理する ・分布状況の推定手法、生息・生育場所の改変の程 ・場の分布の推定手法、場の改変の程度、場の特性度、生態特性に関する知見など予測の不確実性の要とに関する知見などの予測の不確実性の要といて整理する ・重大な影響の有無や予測の不確実性について、各種数案の特徴として整理する ・重大な影響の有無や予測の不確実性について、各種数案の特徴として整理する ・正人な影響の有無や予測の不確実性について、各種数案の特徴として整理する ・正人、EIA 段階を効率的に実施できる ・生息地の分断等の残される影響や予測の不確実性 はこいての整理を EIA 段階等での調査に反映し、予測や保全措置の検討の精度を効果的に向上できる 別や保全措置の検討の精度を効果的に向上できる 測や保全措置の検討の精度を効果的に向上できる 剤や保全措置の検討の精度を効果的に向上できる 剤や保全措置の検討の精度を効果的に向上できる 剤や保全措置の検討の指度を効果的に向上できる 	評価方法 人 /	要な種等に対する影響の有無を複数		・重要な景観、触れ合い活動の場に対する影響
 ・分布状況の推定手法、生息・生育場所の改変の程 ・場の分布の推定手法、場の改変の程度、場の特性度、生態特性に関する知見など予測の不確実性の要に関する知見などの予測の不確実性の要因について、	>	に整理する	無を複数案毎に整理する	の有無を複数案毎に整理する
度、生態特性に関する知見など予測の不確実性の要と同する知見などの予測の不確実性の要因についてを理する ・重大な影響の有無や予測の不確実性について、各 ・重大な影響の有無や予測の不確実性について、各 ・重大な影響の有無や予測の不確実性について、各 ・変数案の特徴として整理する ・配慮書手続での調査、予測及び評価の結果を活用 ・、 こ、EIA 段階を効率的に実施できる ・生息地の分断等の残される影響や予測の不確実性 こ、EIA 段階を効率的に実施できる ・生息地の分断等の残される影響や予測の不確実性 こいての整理を EIA 段階等での調査に反映し、予 測や保全措置の検討の精度を効果的に向上できる 別や保全措置の検討の精度を効果的に向上できる 測や保全措置の検討の精度を効果的に向上できる 測や保全措置の検討の精度を効果的に向上できる 測や保全措置の検討の精度を効果的に向上できる 測や保全措置の検討の精度を効果的に向上できる		・分布状況の推定手法、生息・生育場所の改変の程	・場の分布の推定手法、場の改変の程度、場の特性	・主に事業計画の熟度による不確実性の程度に
Town で 整理する ・ 重大な影響の有無や予測の不確実性について、各種数案の特徴として整理する (**) ** ・ 配慮書手続での調査、予測及び評価の結果を活用 ** ・ で い EIA 段階を効率的に実施できる ・ 生息地の分断等の残される影響や予測の不確実性 (またのいての整理を EIA 段階等での調査に反映し、予測を保全措置の検討の精度を効果的に向上できる (**) ** ・ 配慮書手続での調査、予測及び評価の結果を活用 ** ・ 配慮書手続での調査、予測及び評価の結果を活用 ** ・ 企 に と EIA 段階での地域特性の把握、注目すべき種の ** ・ 生息地の分断等の残される影響や予測の不確実性 ** ・ 生態系の分断等の残される影響や予測の不確実性 ** ・ といての整理を EIA 段階等での調査に反映し、予測や保全措置の検討の精度を効果的に向上できる ** ・ 2 を表示の検討の精度を効果的に向上できる ** ・ 2 を表示		度、生態特性に関する知見など予測の不確実性の要	に関する知見などの予測の不確実性の要因について	ついて整理する
- 重大な影響の有無や予測の不確実性について、各 - 重大な影響の有無や予測の不確実性について、各 - 1 一 複数案の特徴として整理する - 2 一 一 配慮書手続での調査、予測及び評価の結果を活用 - 2 上 EIA 段階を効率的に実施できる - 4 息地の分断等の残される影響や予測の不確実性 - 2 についての整理を EIA 段階等での調査に反映し、予 - 3 の ではこれの整理を EIA 段階等での調査に反映し、予 - 4 にいての整理を EIA 段階等での調査に反映し、予 - 3 の では、 2 の で 2 を 2 を 3 を 3 を 3 を 3 を 3 を 4 を 3 を 3 を 3 を 4 を 3 を 4 を 3 を 3			整理する	
「・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・				
「、」・配慮書手続での調査、予測及び評価の結果を活用・配慮書手続での調査、予測及び評価の結果を活用し、EIA 段階を効率的に実施できる し、EIA 段階での地域特性の把握、注目すべき種の・生息地の分断等の残される影響や予測の不確実性 選定等を効率的に実施できる についての整理を EIA 段階等での調査に反映し、予・生態系の分断等の残される影響や予測の不確実性 測や保全措置の検討の精度を効果的に向上できる についての整理を EIA 段階等での調査に反映し、予測や保全措置の検討の精度を効果的に向上できる 測や保全措置の検討の精度を効果的に向上できる				
し、EIA 段階を効率的に実施できる ・生息地の分断等の残される影響や予測の不確実性 選定等を効率的に実施できる ・生息地の分断等の残される影響や予測の不確実性 法についての整理を EIA 段階等での調査に反映し、予 ・生態系の分断等の残される影響や予測の不確実性 別や保全措置の検討の精度を効果的に向上できる 別や保全措置の検討の精度を効果的に向上できる 別や保全措置の検討の精度を効果的に向上できる	EIA 手続 N		・配慮書手続での調査、予測及び評価の結果を活用	・事業計画の熟度が高い場合には、景観、触れ
実性 選定等を効率的に実施できる 、予・生態系の分断等の残される影響や予測の不確実性る についての整理を EIA 段階等での調査に反映し、予測や保全措置の検討の精度を効果的に向上できる	(ティアリング*)	し、EIA 段階を効率的に実施できる	把握、注目すべ	合い活動の場に関する調査、予測及び評価の結
、予・生態系の分断等の残される影響や予測の不確実性る についての整理を EIA 段階等での調査に反映し、予測や保全措置の検討の精度を効果的に向上できる		・生息地の分断等の残される影響や予測の不確実性		果は、EIA段階でそのまま活用することができ
る についての整理を EIA 段階等での調査に反映し、 測や保全措置の検討の精度を効果的に向上できる		についての整理を EIA 段階等での調査に反映し、予	・生態系の分断等の残される影響や予測の不確実性	N
例や保全措置の検討の精度を効果的に向上できる			ついての整理を EIA 段階等での調査に反映し、	
			測や保全措置の検討の精度を効果的に向上できる	

3.2 □

騒音·超低周波音 ·醫者·紹佈周波音 (醫音·紹佈周波音1)

4月:第6,至15万岁。(第6,五	(贼目,赶低河次目)				•	
(1) 評価指標	(2) 調査方法(予測に必要なデータの収集)	データの収集)			(3) 予測	予測方法
事業計画地圏辺の土地利用(類	①事業計画地周辺の土地利用図、	用図、用途地域図等	域図等		事業計	事業計画地周辺の土地利用(類型指定)
型指定)	【解説】				を把権	
【解説】	土地利用(類型指定)の状況、用途地域の指定状況は、	k況、用途地域	その指定状況	は、以下の	/ [解説]	
位置の検討段階で、事業計画地周	ような都道府県、市町村カ	市町村から発行された既存資料等により情報	-既存資料等	により情報	-	事業計画地周辺での土地利用(類型指定)、
辺の土地利用(類型指定)、用途地					•	用途地域を把握する。
域が把握できる場合、あるいは類	· 土地利用状況図				数型指	類型指定が指定されていない場合には、近
型指定が指定されていない場合	類型指定図				節での	傍での用途地域の指定状況や土地利用の
は、類型指定を仮定するための土地利用の目的が押権できる場合に	·用途地域指定状況図等				三	目的を参考に類型指定を仮定する。
適用する。						
「事業種と複数率の形態」	(4) 評価方法					(5) 不確実性等
東北 東	事業計画地周辺の土地利用	(類型指定)、		用途地域の指定状況を比較	比較	①予測方法:事業による環境影
事 本性 人 中華 十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二	【解記】					響の考慮
線事業	事業計画地周辺の土地利用	(類型指定)、用途地域の指定状況を比較する。	用途地域の	指定状况多	比較する。	[解説]
画事業 ● こうにおける コード・コード・コード・コード・コード・コード・コード・コード・コード・コード・						事業による土地利用の変更等に
上記(表徴) たれるめる 砂関係の側	事業計画地周辺の土地利用		(類型指定)の	の評価結果の例	例	より、類型指定の指定状況が見直
[イメージ]	評価指標 評価の視点	>視点	A案	B案	C海	される可能性がある。
C	圣 声	土地利用	工業米	商業系	住居系	
	5 日 日 宝 宝 宝	類型指定	C類型	C類型	B類型	
: (利用	用途地域の 指定状況	編 居 と と と と は に に が に が に が に が に が に が が に が に が に	近霧商業 地域	第一種住 居地域	
C						

3.12 温室効果ガス等

項目:温室効果ガス等 (温室効果ガス1)

(解言於)

(EIA でも適用される手法)

事業計画による温室効果ガス等の排出量を指標とする。EIA と同様の評価指標であるが、事業の熟度により予測精度が大きく異なる。

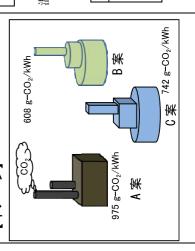
【事業種と複数案の形態】

構造	•		(•)
配置	•		(•)
規模	•		•
位置			
事業種	点事業	線事業	面事業

上記は想定される対応関係の例

(ただし面事業で配置構造の複数案が検 討されるかは事業種により異なることに 留意する。)

スメージ



(2) 調査方法(予測に必要なデータの収集) (①温室効果ガスの排出量を算出する原単位、類似事例

(解説)

温室効果ガス等の原単位は、以下のような既存資料等により情報を把握する。また、事業者が事前に実施している調査報告書等も用いることができる。

· [地球温暖化対策実行計画」各市町村

温室効果ガスの排出量を予測する。また、森林の伐採量に伴う森林の吸収量の

事業計画を基に原単位法、類似事例から

(解説)

温室効果

コピピ

原単位法・類似事例| ガスの排出量を予測

予測方法

 $\widehat{\mathfrak{S}}$

- ·「全国市区町村別自動車 CO2 排出量」環境省
- ・「温室排出ガス排出算定・報告マニュアル Ver. 3.1」 (平成 22 年 9 月,環境省,経済産業省)
- 我が国の温室効果ガス排出量の要因分析」平成 18 年 11 月 環境省 地球環境局・経済産業省産業技術環境局

(構造による建設機械の種類、台数の違い) による温室効果ガスの排出量等を予

工事中は、工事用車両の走行(計画地と 材料採取場との距離)、建設機械の稼働

減少を予測する。

- 「自動車輸送統計年報 平成 20 年度分」(国土交通省)
- 「平成13年工業統計調査(用地・用水編)」(平成15年6月経済産業

測する。

- ・「京都議定書3条3及び4の下でのLULUCF活動に関する補足情報に関する報告書」(日本国 2009年4月)

評価方法

温室効果ガスの排出量を比較

【解説】 温室効果ガスの排出量を比較する。

温室効果ガスの排出量による評価結果の例

の案	742 g– $\mathrm{CO_2/kWh}$
B案	608 g-C0 ₂ /kWh
A案	975 g=C0 ₂ /kWh
評価の視点	温室効果ガス の排出量が少 ないこと
評価指標	温室効果 ガスの排 出量

(5) 不確実性等 (1)事業計画の熟度

「解説】 計画段階では、事業計画の熟度 が低いため、用いる原単位が 様々な要素を含んだ原単位となり、予測精度に不確実性が生じ ろ可能性がある。

1.4 評価方法

- 1) 評価は、個々の重要な種等に対する重大な影響の有無や複数案による差を、複数の観点に立って示すことによって行う。
- 2) 重要な種等の分布状況の推定や物理化学的な環境変化の予測、重要な種等が有する環境変化への応答などの不確実性を考慮して評価を行うことが望ましい。

【解説】

1) 評価の基本的な手法

- ・評価においては、重要な種等の重要性の程度、生活史等の生態特性、重要な生息・生育環境の分布や連続性への影響の程度などを考慮し、事業計画の特性や熟度に応じて、 重大な影響の有無や複数案による差を丁寧に示すことが必要である。
- ・複数案による差を示す際に、例えば影響を受ける種の数や影響を受ける自然度の高い環境の面積等を指標とすることが考えられる。しかし、案によっては影響を受ける種数が少なくても重要性の程度が著しく高い重要な種等が含まれる場合や、改変する面積が小さくも重要な種等にとっては影響が大きい場合も想定される。
- ・評価は、このような予測の内容のほか、不確実性の内容や程度等、複数の観点に立った各案の特徴を比較整理することによって行う。

2) 不確実性についての評価

・動物及び植物の評価を行う際には事業計画の熟度に加え、重要な種等の分布状況について既存資料の内容や分布の推定手法によって生じる不確実性、生息・生育環境への物理化学的な環境変化の予測の不確実性、重要な種等が有する環境変化に対する応答の不確実性などを考慮する必要がある。しかし、動物・植物の予測において不確実性の全てを定量的に評価することは困難であることから、予測結果の評価にあたっては、定性的でも主にどこにどの程度の不確実性があるかについて見解を示しておくことが望ましい。なお、不確実性についての見解は、以後のEIA 段階で不確実性を低減するための調査方法や予測方法の参考とすることができる。

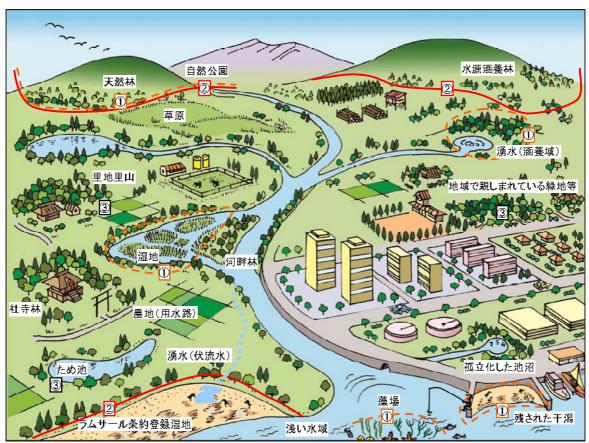
表 1-5 予測結果等に基づく各案の特徴の整理の例

重要な対象	生態特性等	案①	案②	案③
種a	重要性の程度高	× 影響が大きい	影響が小さい	
種b	分布データ少※	影響が小さい	影響が小さい	× 影響が大きい
種c	広く分布する		△ 影響がある	× 影響が大きい
種d	水域の種	- 影響は想定され	△ 影響がある	- 影響は想定され
	土砂の粒径に生	ない		ない
	息が左右される			
		•	•	•
•		i		
•		•	•	
各案の特徴		影響を与える種数は少	水域に影響を与える案	重要性の程度の高い種
		ないが重要性の程度が	で、流砂系の変化と種d	aについての影響は小さ
		高い種aに影響を与える	の応答について、不確	いが、他の案に比べ改
		案	実性が多い案	変面積が広く、影響を与
				える対象種が多い案

※)分布データが少ない場合、分布状況の推定に不確実性が大きくなる。

く生態系で考慮すべき地域特性(重要な自然環境のまとまりの場)について>

- ・表 2-1の①~③の捉え方を図 2-1に模式的に示した。
- ・対象地域において「②環境保全の観点から法令等により指定された場」は明確に位置 づけられ、重要な自然環境のまとまりの場と判断する根拠の不確実性は低い。
- •「①環境影響を受けやすい場」の範囲は、②に比べ曖昧となるが、主要なものは法令等により既に指定されている場合が多く、指定されていない場合でも②で指定された環境に類する人為的な改変をほとんど受けていない自然環境や脆弱な自然環境を考えることで、比較的抽出しやすいと考えられる。
- ・「③法令等により指定されていないが地域により注目されている場」については、生物 多様性地域戦略や地域計画等で明示されている里地里山、湿地帯等は抽出しやすいも のの、その地域のみで親しまれている林、小さな水辺等の地域を特徴づける重要な自 然環境についても見落としのないよう留意する必要がある。
- ・特に都市部や都市近郊の田園地帯においては、残された良好な自然環境が孤立的に存在することもあり、これらは周辺環境との相対的な関係により重要な自然環境のまとまりの場として把握できる。
- ・周辺環境と相対的な関係の把握の際には、対象の歴史性、地域に親しまれた環境、種の多様性、生態系の機能など、複数の視点から確認する。



- ①環境影響を受けやすい場
- ②環境保全の観点から法令等により指定された場
- ③法令等により指定されていないが地域により注目されている場

図 2-1 生態系で考慮すべき地域特性の模式図

2.4 評価方法

- 1)評価は、個々の重要な自然環境のまとまりの場に対する重大な影響の有無や複数案による差を、複数の観点に立って示すことによって行う。
- 2) 重要な自然環境のまとまりの場の分布状況の推定や物理化学的な環境変化の予測などの不確実性を考慮して評価を行うことが望ましい。

【解説】

1) 評価の基本的な手法

- ・評価においては、重要な自然環境のまとまりの場の重要性の程度、特性、場のつながり(生息地のネットワーク)への影響の程度などを考慮し、事業計画の特性や熟度に応じて、重大な影響の有無や複数案による差を丁寧に示すことが必要である。
- ・複数案による差を示す際に、例えば影響を受ける場の面積等を指標とすることが考えられる。しかし、案によっては影響を受ける面積が少なくても重要性の程度が著しく 高い重要な自然環境のまとまりの場が含まれる場合が想定される。
- ・評価は、このような予測の内容のほか、不確実性の内容や程度等、複数の観点に立った各案の特徴を比較整理することによって行う。

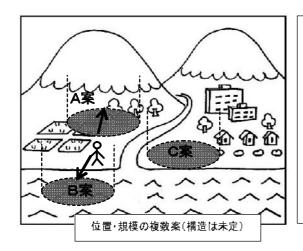
2) 不確実性についての評価

・生態系の評価を行う際には事業計画の熟度に加え、重要な自然環境のまとまりの場の 分布状況について既存資料の内容や分布の推定手法によって生じる不確実性、物理化 学的な環境変化への生態系の反応予測の不確実性、生態系を構成する群集の変化の予 測の不確実性などを考慮する必要がある。しかし、生態系の予測において不確実性の 全てを定量的に評価することは困難であることから、予測結果の評価にあたっては、 定性的にでも主にどこにどの程度の不確実性があるかについて見解を示しておくこと が望ましい。なお、不確実性についての見解は、以後の BIA 段階で不確実性を低減す るための調査方法や予測方法の参考とすることができる。

表 2-5 予測結果等に基づく各案の特徴の整理の例

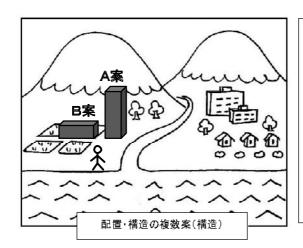
重要な対象	特性等	案①	案②	案③
自然公園	_	× 改変面積が大きい	〇 改変面積が小さい	〇 改変面積が小さい
まとまりの場 a	重要性の程度	× 改変面積が大きい	〇 改変面積が小さい	〇 改変面積が小さい
	が高い			
まとまりの場 β	地域で注目	〇 改変面積が小さい	× 改変面積が大きい	× 改変面積が大きい
まとまりの場の	複数の主要な	〇 影響が小さい	△ 影響がある	× 影響が大きい
つながり	経路がある			
まとまりの場 c	土砂の粒径が	- 影響は想定されな	△ 影響がある	× 粒径が小さくなる
(水域)	通常は粗い	()		
•		•	ī	•
•		•	•	•
各案の特徴		地域で注目されている	自然公園と重要な自然	自然公園と重要な自然
		場に影響を与える案	環境のまとまりの場に	環境のまとまりの場に
			影響し、土砂の粒径変	影響し、土砂の粒径変
			化が予測される案	化が特に大きいと予測
				される案

・なお、眺望景観や触れ合い活動の場については、直接改変のほか、事業による騒音や 悪臭の発生、水質の変化(アオコの発生等)による影響が想定されるが、これらにつ いては大気や水質等の予測結果を踏まえて予測を行う。



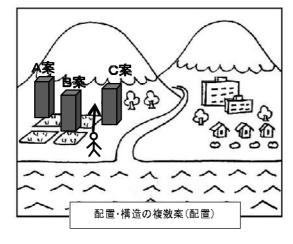
A案:山の眺望景観の改変の可能性がある B案:海の眺望景観の改変の可能性がある C案:影響を及ぼす可能性のある眺望点ま たは眺望景観がない

(A案、B案は事業計画の配置・構造が未 定のため、眺望景観への影響の予測は定性 的であり、不確実性がある)



A案:山の眺望景観の改変の程度が大きい B案:山の眺望景観の改変の程度はA案より小さい

(A 案、B 案は事業計画の構造の複数案であり、それぞれの案の諸元により、眺望景観の改変の程度が比較可能である)



A案:山の眺望景観の改変の程度は小さい B案:山の眺望景観が改変される可能性が

C案:山と森の眺望景観が改変される可能 性がある

(各案は事業計画の配置の複数案 (構造物の高さ等の諸元は同じ)であり、眺望景観の改変の程度が比較可能である)

図 3-2 事業計画の熟度に応じた眺望景観の予測のイメージ

表 3-6 予測結果等に基づく各案の特徴の整理の例

	指標特性等	案①	案②	案③
景観資源	ООЩ	× 一部改変する	○ 改変がない	○ 改変がない
眺望点	10 箇所	× 3箇所を改変	○ 改変がない	○ 改変がない
眺望景観	主な景観資源	× 複数の眺望点から	〇 いずれの眺望点で	△ 1 つの眺望点で眺
	との距離	の眺望景観を改変する 可能性	も眺望景観を改変しな い	望景観改変する
触れ合い活動の 場	10 箇所	〇 改変がない	× 2箇所を改変	△ 1箇所を改変
アクセス性	10 ルート	○ 改変がない	△ 2ルートを改変	△ 2 ルートを改変
•		•	•	•
•		•	•	•
各案の特徴		景観資源を一部改変 し、かつそれによる複 数の眺望点に影響を与 える案	景観資源は改変しないが、触れ合い活動の場 を改変する案	景観資源は改変しない。眺望点や触れ合い活動の場への影響も案②より小さい